



シクリスムエコー No.194 2012年10月号

2012年UCIロード世界選手権大会	2
今後の大会予定	9
2012年UCIマウンテンバイク&トライアル世界選手権	10
第68回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	12
第46回JBCF経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ	14
競技大会結果	15

「泉崎国際サイクルスタジアム」災害復旧支援金募金	15
NEWS	15
日本代表選手団	15・16
連盟の動き	16
第67回国民体育大会自転車競技会	17
2012年UCIトライアル世界選手権PHOTO	20

2012年UCIロード世界選手権大会

男子エリート6名出場するも宮澤が完走するのみ



世界選ロード男子エリートのメイン集団



男子エリート スタート前の選手

男子エリートの新城



男子エリート唯一完走の宮澤



男子エリート 追走集団の別府



男子エリートの福島

男子エリートの土井



男子エリートの畑中



男子 U23 メイン集団の椿



男子 U23 前半逃げる木下



男子 U23 唯一完走の平井



男子 U23 の寺崎



宿舍前での記念撮影



女子エリートの萩原

エリート男・女

9月22日 エリート女子 (128.8km)

午前中に行われたU23男子レースの後、エリート女子のレースが14時30分から行われた。朝の気温が7℃から気温上昇し日差しが暑く感じられる中、37ヶ国132名がスタート、日本からは萩原麻由子が出場。

1周16.1km周回コースを8周する128.8kmで行われ、スタートから強豪国がメイン集団をコントロールしローペースで1周目を終了。

ローペースのためか2周終了前のカウベルグ頂上付近で突然大きな落車が発生、4m以上はある走路がふさがれ、行き場を失った選手が共にぶつかり走りだせないままメイン集団から遅れる。

後方にいた萩原も集団から遅れ、バラバラになった選手と共に先頭交替をしながら1周かけて辛うじてメイン集団に復帰。

トップ集団はイタリア、オランダが集団をコントロール、終盤に向けメイン集団のペースが上がる中、4周終了前のカウベルグ登りで萩原がメイン集団から脱落、落車で遅れメイン集団に追い付くのに足を使い力尽きた萩原は最終周を残し無念のリタイア。

最終周5名のトップ集団のうち、カウベルグの登りで強烈なアタックで他の選手を一瞬にして引き離れた地元オランダのマリアン・ヴオスが圧倒的な力の差を見せつけ独走でゴール、オリンピックに次いで世界選手権の優勝も勝ち取った。

<総評>

ここ数年、エリート女子1名参加が続く萩原は、残念ながら強豪国相手に思い切った走りが出来ないままリタイアに繋がった。

ロード競技は高レベルのレース経験が必要不可欠、強豪国の多いヨーロッパでのレース経験が少ない萩原にとってはレース中に居場所のない戦いを強いられてしまうため、今後世界で勝負するには、本場ヨーロッパで高レベルのレース経験が必要である。

9月23日 (日)

エリート男子 (269km)曇り12℃

小雨のぱらつくマーストリヒト中心部、マルクト広場をスタート、アムステル・ゴールドレースと同じコースを

106km走り、ヴァルケンブルグの周回コース(16.1km×10周)に入る。

48ヶ国207名の選手がスタート、日本チームは福島晋一・宮澤崇史・別府史之・土井雪広・新城幸也・畑中勇介の6選手が出場。

序盤から2名の選手がアタック、集団からの逃げを試みるも決まらず、47km過ぎに11名の選手がメイン集団から抜け出し徐々にタイム差が開く、メイン集団もこれを黙認する展開のまま5分差でヴァルケンブルグの周回コースに入る。

周回に入り土井の前輪スポークが折れサポートカーから車輪交換し直ぐに集団に復帰。

トップ集団11名に選手を送り込めなかったベルギー、イギリスがメイン集団をコントロール。トップ集団とのタイム差を徐々に詰めて行く中、ラスト8周終了前のカウベルグの登りで別府を含む9名の選手がメイン集団から抜け出しトップ集団を追走。

直後にコロンビアの選手と絡んで落車した新城が前輪を破損、畑中の車輪を借りて直ぐに走った新城を福島がアシスト。サポートカーは落車で止められ直ぐにサポートできなかったが、遅れた選手をかわしながら新城と福島に追い付きメイン集団に復帰させる。

アシストした畑中はその後補給地点で急停車したサポートカーに激突、直ぐに走りだすがダメージが大きく途中リタイア。

別府を含む9名の追走グループはラスト5周回でトップ集団の11名に追い付くが間もなくして後続のメイン集団から追走してきたスペイン、ベルギー、フランス、地元オランダの有力選手が別府を含むトップ集団に追い付き、トップ集団が30名ほどになる。

メイン集団で走っていた土井が再びメカトラブルで自転車を交換するがメイン集団から大きく遅れ、福島と共にラスト5周を残してリタイア。

終盤に入り激化する先頭争いにトップ集団のペースが上がり、追走グループで力を消耗した別府がトップ集団から脱落ラスト3周を残してリタイア。トップ集団を追走するメイン集団で走っているのは宮澤、新城の2名、ラスト2周を残して新城が落車で痛めた右足が痛み脱落リタイア。

ラスト周回に入りスペイン、イタリア、ベルギー、ドイツが主導権を握り、

最終周のカウベルグの登りで強烈なアタックを見せたニーバリ(イタリア)のアタックに反応したのはジルベール(ベルギー)だった。一列棒状に伸びた先頭集団から一気に抜け出したジルベールは会心の走りで後続を断ちきり独走でゴール。初の世界選手権優勝、アルカンシエルのジャージに袖を通した。

最後まで走り切った宮澤は2分21秒遅れでゴール54位に終わった。

<総評>

今大会のエリート男子世界選手権には過去最多6名を送り込み、前日のミーティングでは入念な打ち合わせを行い、今まで出来なかったチーム力で上位入賞を目指した。

今大会一番調子のよい新城をエースにして、100km過ぎの周回コースに入るまでは各選手共に無駄な動きをせず力を温存し、勝負所となる後半戦に持ち込み最低2名の選手を終盤に残しラスト3周で新城が勝負をする作戦でレースに臨んだ。

周回に入るまでは順調なレース展開であったが、周回コースでトラブルが多発、エースの新城が落車に巻き込まれるなどレース展開に恵まれず、新城のアシストをした畑中、福島、途中トップ集団に食らいついた別府、メカトラブルで遅れた土井、共に力を使い果たし途中リタイア、宮澤が最後まで走り切ったものの第3集団の完走。

2010年の世界選手権9位以上の成績を狙ったが残念ながら今大会では目的を果たせなかった。

今大会は各国のチームプレイに乗らず、日本チームとして戦ったが世界の壁は厚く強豪国の力強さを改めて痛感した。(強化コーチ 高橋 松吉)



JPN チームカー

男子U23

<目標>

U23 4年目の平井には今大会、3年目の椿・木下・寺崎には今年と来年の2年がかりでトップ10入りを目標とした。

<準備>

4名が欧州拠点で活動する選手のため、1週間前まで欧州のアマチュアレースをこなし現地入りした。

<前日ミーティング>

各4名がそれぞれの意思を認識し合いレースに臨んだ。

木下:序盤からの逃げに乗り追撃を待つ
 椿:中盤の逃げや追撃の展開に参加し
 トップグループに入る

寺崎と平井:中盤以降のペースアップ
 に持ちこたえ先頭グループに残る

<レース内容>

スタートから木下を含む3名が先頭グループを形成、しばらくは後続も追撃を凶るが主力国がこの逃げは安全であると判断し一時は8分まで差を広げる。中盤には主力国を中心とする追撃が活発になり、タイム差が縮まる。椿は常に先頭付近をキープし展開に参加するが、動きすぎて全体のペースアップ時に集団から遅れてしまう。終盤になると追撃グループが先頭3人を捉え、メイン集団もすぐに合流しレースは振り出しに戻る。この時点のペースアップに木下と寺崎が遅れてしまう。

最終周までメイングループに付けた平井はゴールスプリントに備えたが、最後の上りでのスピードアップで脱落してしまい25秒遅れの第2集団でゴールとなった。

<評価と課題>

予定通りの動きはできたものの、4名ともここで戦うレベルに到達してなく好成績には至らなかった。主力国とは大きな力の差があると感じた。参加者の半数以上がプロやネイションズカップのレースを通年こなして参加しているため、日本も欧州に拠点を置き世界戦までの参戦プログラムを立て活動し、トップ10に入賞する選手を輩出すること。そして8月末に補欠を含めたメンバーを選び、レース10日前辺りに実績を考慮したうえで調子の良い選手を選び本線に参加する必要がある。特に欧州国ではない主力国であるオーストラリア、ロシア、カザフスタン、カナダなどの活動を見習う必要がある。

(浅田 顕)

男子ジュニア

9月17日 タイムトライアル (26.6km)

今年の世界選手権タイムトライアルにはジュニア強化合宿でも毎回TT能力の向上が見られ、アジア選手権TT2位、全日本ジュニアTT1位の西村大輝が参加。コース全体として緩く登り、または緩く下るパートが多く、20kmを超えてから2.1km(平均勾配4.1%)の登り、そしてロードコースでも使われる1.2km(平均勾配5.8%)のカウベルグの登りが待ち構える。力だけではなくレース全体のペース配分が求められるコースであった。前から2番目出走ということで他の選手との計測ポイントでのタイムは参考にならないので合宿からの走りでのペース配分を判断することにする。風向きを心配していたが、この日は向い風が弱く吹く程度であった。試走時とコース自体は同じであるが、柵がコース幅を狭める形で多く置かれており、特にレース前半の5kmほどは試走時よりコーナーの道幅が狭くなっている箇所も多い。

レースでは前半の若干の向かい風の平坦、緩い下り箇所、後半に控える登り2箇所とオーバーペースに陥らず、うまくペース配分をできていた。スタートして最初の17.5kmのチェックポイントは48位(優勝した選手から1分16秒差)、2箇所の登りを含むラスト9.1kmのラップタイムは35位(優勝した選手から56秒差)と後半の登りで順位を上げたが結果は66名参加中42位、トップから2分12秒差(42.233km/h)であった。

今年のネイションズカップでの他の日本選手のTTの結果からレース前には20位から30位、トップから1分30秒差以内を現実的な目標としていた



男子ジュニア TTの西村

が、それには届かなかった。それでも世界のTTの強豪の多くに1分半から40秒ほどのまだ手の届く差でとどめられたのは評価できる。現在の日本のジュニア世代ではTTにおいて他の強化指定選手より頭一つ抜き出た力をみせる西村でも世界との差は大きく、この差を埋めるべくこれからのジュニア選手にも選手としての基本となる独走力の向上を合宿等でもより促していきたい。

9月23日 ロードレース (128.8km)

今回のコースは16.1kmの周回コースの中に900mで平均勾配5%のベメルベルグとアムステルゴールドレースのゴール地点として有名な1.2kmで平均勾配5.8%、最大勾配12%のカウベルグの登りがあり、カウベルグの登り頂上から1700mの平坦の先にゴールを迎える。ポイントとなるのはまずベメルベルグの登りで、この登りに入る前の道が狭く、さらにこの登りの後の平坦、アップダウン区間が吹きさらしで右からの横風を強く受けることが予想され、この登りには集団の前方で入らないと中切れ、また狭い区間で落車が起こると常に速いペースが続くジュニアレースでは取り返しがつかない差となってしまふ。特にジュニアカテゴリーではレース1周目が危険なため、レース3日前のコースを使った練習日にはこの登り入り口手前からを反復してコースをしっかりと覚える。

そしてレース結果を左右する最大のポイントはゴール近くのカウベルグの登り。非常にスピードの出る下りを直角に曲がって登り始めるこの登り坂は、登り自体も厳しいが、その前の下りで前に位置していないと登りはじめでは完全にストップしてからのゼロ発進を強いられるために、ラスト1周は特にこの下り前での位置取りが非常に重要になる。さらにこの日はカウベルグを超えた後の平坦区間が強い追い風であり、ジュニアは52×14Tのギア制限があるため、登りで中切れに合うとギアを回しきっても前に追いつけなくなる危険がある。ところどころ道幅が狭い箇所のある今回のコースでは170名以上の選手が危険回避で前に位置取りをしようとするため、レース前半は特に集団落車の危険も非常に高く、前にいることに対して脚を使うことは惜しまないように伝える。とにかく前でレースを進めることを徹底する。

男子ジュニア スタート前の4選手



レースは朝9時スタートということで8時前には会場入りしてローラー台でスタート準備を行なう。気温はスタート前は8℃ほどで、この日は雨の予報が出ており、降りはじめたら選手は厳しい寒さとも戦わないといけなくなる。54か国175名が参加するこのレースにチームとして動ける国は、デンマーク、ベルギー、イタリア、オランダ、オーストラリア、オーストリアといったネーションズカップでも上位を占める強豪国で、スプリントになった際には西村、小橋にはオーストラリアの強豪スプリンターのカレブユアンをマークするように伝える。4名参加の日本チームは全員まとまって動く選択肢もあったが、落車頻発が予想されるジュニアの今回のコースではチームでまとまって位置取りをすることよりもリスク回

避で敢えて西村、小橋、横山は自由に位置取りし、強力な脚はあるが密度の高い集団走行の苦手な徳田には小橋のそばを走るように指示をする。集団走行の得意な小橋の指示で走ること徳田がクロアチア、ドイツのネーションズカップの多くのステージでみられた無意識に後ろに下がる走りにならないよう注意した。

先頭集団に西村、小橋が残った場合に日本チームとしてより良い順位を目指すためによりスピードのある西村のアシストに小橋をつけるか迷ったが、ジュニア選手には悔いなく自分のレースを走らせる方が重要と考え、自分自身の走りに集中するように伝えた。

スタート直後の1周目からアタックがかかるが、集団は長く伸びた状態でスタートゴール地点を通過。小さな落

車はいたるところで起こる。スピードの上昇した2周目、3周目には大きな落車も発生したが、運よく日本の4選手は大きくは巻き込まれない。チームカーが走れないジュニア世界選手権では代車に乗り換える際には補給所でバイク交換するのだが、毎周のように数選手がスポーク切れ、落車で曲がったサドル、傷んだフレームのバイクを交換しており、落車が多いことが伺える。補給所あたりは平坦追い風でスピードも上がり、補給スタッフが道を狭くしてしまうためここでも落車が数回発生する。4周目あたりに複数の強豪国を含む10数名のアタックが決まりかけるが、20秒のタイム差がつかない状況で縦に伸びた集団に吸収される。逃げが決まりにくい展開のなか、横山は4周目あたりで落車を回避した直後の登りで脚を攣ってしまい、一人集団から遅れその後リタイヤする。

レースはスピードが落ちないまま100名近い集団でラスト1周を迎える。最後のカウベルグでもペースは上がるが抜け出す選手はおらず、そのあとのラスト1kmの平坦でスロベニアの選手が1人で抜け出し、メイン集団からタイム差なしで逃げ切り優勝。2位以下は55名での集団スプリントになり、西村が23位、小橋が48位でゴール。徳田も先頭集団に残っていたがカウベルグを超えたラスト1kmをきったあたりの平坦での落車に巻きこまれて目の上を切り、激しく出血しながらゴール。西村は最終周のカウベルグでは先頭の5番手あたりの良い位置につけ、一人で大柄な選手らと激しい位置取り合戦をしていたが、集団の好位置を最後まで

Meitan

SuperAthlete

エネルギー補給からエネルギー変換まで!

<http://www.meitanhonpo.jp>



梅丹本舗は、プロ選手の意見と健康補助食品開発者の知識とノウハウが融合した商品群で、エネルギー補給からエネルギー変換までトータルに自転車競技をサポートしています。(左より3商品)素早くかつ持続するエネルギー補給食「サイクルチャージ」シリーズ。厳選した糖質に加え、運動に必要な栄養素を可能な限り添加。40g・約100kcal。(右)胃と肝臓の動きを高め、糖質を限りなくエネルギーに変換するトレーニングサプリメント「トップコンディション」。ウコン・クルクミン・アラニン・梅肉エキス等の健康成分配合。

株式会社 梅丹本舗
スーパーアスリート事業部
大阪府摂津市学園町1-1-26

梅丹本舗は、日本自転車競技連盟のオフィシャルスポンサーです。自転車競技ナショナルチームを応援しています。

死守できずスプリントで上位には絡めなかった。それでもレース途中の落車に巻きこまれた際にトップチューブが割れてしまっていたが諦めず無事ゴールまで走りきれて良かった。

小橋はラストのペメレルベルグの登り前から集団前方に位置することに成功するが、カウベルグに向かう下り手前のロータリーで大きく番手を下げてしまい、前に上がるために大きく脚を使わざるを得ず、集団での上位争いのスプリントに加わることは出来なかった。徳田はゴール直前の落車に引っかかっていなければ先頭集団で最後に何かできたであろう。横山はドイツのネイションズカップで混戦の中でも物おじしない度胸と技術、脚をみせて2度のステージで上位に絡んで今回も期待されたが、今回は世界選手権前にレースから遠ざかっていたことも影響したか良いところは見せられなかった。まだジュニア1年目であり、来期の走りに期待したい。

今回の世界選手権ロード・ジュニアの結果に関しては満足のものではなく、悔しいという思いが非常に強く残るレースとなった。昨年までの結果からすれば西村の23位というのは悪くはない結果とも思えるが、今回の選手力からすれば1桁でゴールしても驚くような結果ではなく、世界選手権でしっかり勝負できると信じられる選手達であった。そしてレース後に今回の結果に悔しがる選手達からも選手ら自身もそう強く感じてレースに挑んでいたということを感じ、そこに西村、小橋、徳田の2年間のジュニアカテゴリー期間での成長をみることが出来た。

ただ今回の世界選手権では密集した集団走行を得意とする西村、小橋、横山にとっても狭いコース箇所での集団走行はストレスを強く感じたようで、このあたりはヨーロッパで常に厳しいコース環境の下レースを経験している選手らとの差があることも認めなければならぬ。高い運動能力があるだ

けではなく、その能力を無駄に使わないための高い集団走行技術が求められる。ジュニア1年目の選手で30位以内に入った選手はわずか2人しかおらず、そこから今回のコースは力だけではなく経験も要求されたと言えり。これらの経験、技術は現段階では日本のレースを走っているだけでは身につけるのは難しい。

ジュニアカテゴリーの段階で、ネイションズカップそして今回の世界選手権と選手自身が世界を遠いものではなく、手の届くところにあると感じられたことは今後の彼らの活動にとってもジュニア部会の活動にとっても大きな意義のあるものとなった。今回でジュニアを卒業する西村、小橋、徳田はそれぞれの進路でロードレースを続けていくであろうが、U23カテゴリーでも世界の中での自分の位置を常に忘れず意識して活動をしていてもらいたい。

(ジュニア強化育成部会 柿木 孝之)

【競技結果】(日本人出場種目のみ)

2012年UCIロード世界選手権大会 (2012/9/15-23 オランダ・リンバルグ)

<個人タイムトライアル>

男子U23 (36km)

1	VOROBYEV Anton RUS	44:09.02
2	DENNIS Rohan AUS	44:53.41
3	HOWSON Damien AUS	45:00.14
63	橋 大志 東京 BS-U23	51:25.63

男子ジュニア (26.6km)

1	SVENDSEN Oskar NOR	35:34.75
2	MOHORIC Matej SLO	35:41.79
3	SCHACHMANN Maximilian GER	35:46.58
42	西村 大輝 東京 昭和第一	37:47.38

<個人ロードレース>

男子エリート (269km)

1	GILBERT Philippe BEL	6:10:41
2	BOASSON HAGEN Edvald NOR	6:10:45
3	VALVERDE BELMONTE Alejandro ESP	6:10:46
54	宮澤 崇史 JPCA チームサクソバンク	6:13:02
	新城 幸也 JPCA チームヨーロッパカー	DNF
	別府 史之 JPCA オリカ・グリーンエッジ	DNF
	福島 晋一 JPCA トンガヌサイクリング	DNF
	土井 雪広 山形 アルコス・シマノ	DNF
	畑中 勇介 東京 シュルレーシングチーム	DNF

女子エリート (128.8km)

1	VOS Marianne NED	3:14:29
2	NEYLAN Rachel AUS	3:14:39
3	LONGO BORGHINI Elisa ITA	3:14:47
	萩原麻由子 和歌山 サイクル・スあさひ	DNF

男子U23 (177.1 km)

1	LUTSENKO Alexey KAZ	4:20:15
2	COQUARD Bryan FRA	4:20:15
3	VAN ASBROECK Tom BEL	4:20:15
57	平井 栄一 神奈川 BS-U23	4:20:40
	木下 智裕 神奈川 エコス	OTL
	寺崎 武郎 福井 BS-U23	OTL
	椿 大志 東京 BS-U23	DNF

男子ジュニア (128.8km)

1	MOHORIC Matej SLO	3:00:45
2	EWAN Caleb AUS	3:00:45
3	RUMAC Josip CRO	3:00:45
23	西村 大輝 東京 昭和第一学	3:00:45
48	小橋 勇利 愛媛 ホンジャス飯田	3:00:45
104	徳田 優 京都 北桑田高校	3:02:24
	横山 航太 長野 篠ノ井高校	DNF



今後の大会予定

※ 追加・変更がある場合があります。

期 日	大 会 名	種 目	場 所
10月27日～28日	第29回全日本BMX選手権大会	BMX	静岡/日本CSC
10月27日～28日	MTBチャレンジ クロスカントリー in 白馬さのさか J1 XCO#7	MTB	長野/白馬スノーハーブ
10月28日	第8回全国ジュニア自転車競技大会	RR	三重/四日市
10月28日	第5回JBCF 輪島ロードレース	RR	石川/輪島
11月2日～4日	第76回UCI 室内自転車競技世界選手権大会	ID	ドイツ/アシャフエンブルク
11月3日～4日	2012年第18回日韓対抗学生自転車競技大会	TR	奈良/奈良競輪場
11月11日	第43回JBCF全日本トラックチャンピオンシップ	TR	静岡/伊豆ペドロローム
11月11日	第59回全日本プロ選手権自転車競技大会BMX競技	BMX	静岡/日本CSC
11月16日～18日	2012-2013 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#2	TR	イギリス/グラスゴー
11月17日～18日	伊豆BMX国際 (UCIクラス5)	BMX	静岡/日本CSC
11月18日	信州クロス野辺山高原ラウンド (UCIクラス2)	CX	長野/南佐久
11月24日～25日	ツール・ド・おきなわ2012	RR	沖縄/北部地域
11月25日	関西シクロクロス野洲ラウンド (UCIクラス2)	CX	滋賀/野洲
12月1日～2日	第43回全日本室内自転車競技選手権大会	ID	大阪/大阪府立体育館
12月9日	第18回全日本シクロクロス選手権大会	CX	静岡/富士宮
2013年1月17日～19日	2012-2013 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#3	TR	メキシコ/アグアスカリエンテンス
2月2日～3日	UCIシクロクロス世界選手権大会	CX	アメリカ/ルイビル
2月17日	全日本学生RCS最終戦・第7回明治神宮外苑大学クリテリウム	RR	東京/明治神宮外苑
2月20日～24日	UCIトラック世界選手権大会	TR	ベラルーシ/ミンスク
3月7日～17日	アジア自転車競技選手権大会	TR/RR	インド/デリー
3月21日～24日	平成24年度全国高等学校選抜自転車競技大会	TR/RR	福岡/北九州、熊本/山鹿
3月24日	アジアBMX選手権大会	BMX	シンガポール
4月7日	第38回チャレンジサイクルロードレース大会	RR	静岡/日本CSC
4月or5月	全日本トライアル選手権大会	Trial	(会場未定)
4月or5月	全日本パラサイクリング選手権大会	PC	(会場未定)
5月19日	MTB八幡浜国際クロスカントリーレース	MTB	愛媛/八幡浜
5月19日	堺国際クリテリウム	RR	大阪/堺
5月19日～26日	第16回ツアー・オブ・ジャパン	RR	堺、東京他
5月20日	第60回全日本プロ選手権自転車競技大会トラックレース	TR	大阪/岸和田競輪場
5月30日～6/2日	ツール・ド・熊野2013	RR	和歌山、三重
6月9日	2013年全日本選手権個人タイム・トライアル・ロードレース	RR	秋田/大湯
6月22日～23日	全日本自転車競技選手権ロードレース2013	RR	大分/大分、豊後大野
7月6日～7日	第30回全日本BMX選手権大会	BMX	静岡/日本CSC
7月20日～21日	第25回全日本マウンテンバイク選手権大会	MTB	静岡/日本CSC
7月25日～28日	UCI BMX世界選手権大会	BMX	ニュージーランド/オークランド
7月27日～28日	第82回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	TR	静岡/伊豆ペドロローム
7月31日～8/3日	平成25年度全国高等学校総合体育大会自転車競技会	RR/TR	大分/日田、別府
8月	UCIパラサイクリング・ロード世界選手権大会	PC	カナダ
8月7日～11日	UCIジュニアトラック世界選手権大会	TR	イギリス/グラスゴー
8月17日～18日	2013年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会	TR	静岡/伊豆ペドロローム
8月17日～18日	2013全日本オムニアム選手権大会	TR	静岡/伊豆ペドロローム
8月25日～27日	第48回全国都道府県対抗自転車競技大会	RR/TR	長崎/壱岐、佐世保
8月26日～9/1日	UCI MTB/トライアル世界選手権大会	MTB/Trial	南アフリカ/ピーターマリッツブルク
8月29日～9/1日	文部科学大臣杯第69回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	TR/RR	青森/八戸、階上
9月6日～8日	第5回全日本ステージ・レース in いわて	RR	岩手/八幡平
9月14日～16日	ツール・ド・北海道2013	RR	北海道/道央
9月14日～16日	日本スポーツマスターズ2013自転車競技会	TR	福岡/北九州
9月21日～29日	UCIロード世界選手権大会	RR	イタリア/フローレンス
9月29日～10/3日	第68回国民体育大会自転車競技会	RR/TR	東京/八王子、あきる野、檜原、奥多摩、立川
10月19日	2013ジャパンカップ・クリテリウム	RR	栃木/宇都宮
10月19日～20日	2013ジャパンカップサイクルロードレース	RR	栃木/宇都宮
11月10日	ツール・ド・おきなわ2013	RR	沖縄/北部地域
11月17日	2013伊豆BMX国際	BMX	静岡/日本CSC
11月22日～24日	UCI室内自転車競技世界選手権大会	ID	スイス/バーゼル
12月8日	全日本シクロクロス選手権大会	CX	(会場未定)
12月14日～15日	全日本室内自転車競技選手権大会	ID	(関東地域)
2月1日～2日	UCIシクロクロス世界選手権大会	CX	オランダ/フーゲンハイド
2月26日～3/2日	UCIトラック世界選手権大会	TR	コロンビア/カリ

※ RR:ロードレース, TR:トラックレース, CX:シクロクロス, MTB:マウンテンバイク, Trial:トライアル, BMX:BMX, ID:室内競技, PC:パラサイクリング

2012年UCIマウンテンバイク&トライアル世界選手権大会



トライアル・エリート20で寺井が6位!

マウンテンバイク

今年のMTB世界選手権はオーストリアで、DHI・4XとXCOを同じエリアながら2ヶ所に分かれて2週間連続の開催になった。



ダウンヒル会場

[DHI タイムドセッション]

世界戦にはワールドカップのような予選はなく、タイムドセッションは決勝に向けてのタイム計測付き練習といったところ。朝から降ったり止んだりのお天気だったが、タイムドセッションが行われた午後には雨は止み、濃い霧の中始まった。結果は、清水一輝が79位、末政実緒が22位だった。「タイムドセッションでスタートからゴールまで通して走ると想像以上にキツかった。しかし、決勝に向けてのいい練習が出来た。今日得たものを明日の決勝に活かして全力で走りたいと思う。」(清水)

「練習では問題なく走っていたセッションで失敗してしまったりと、ミスが多いランとなってしまった。」(末政)

[DHI 決勝]

天候は回復し決勝が行われる頃には一面青空が広がった。路面コンディションは刻一刻と変化し、タイヤチョイスやセッティング等決勝直前まで悩まされるレースでもあった。結果は清水70位、末政20位。

「昨年の世界選手権や今年のワールドカップを経験し、決勝はリラックスしてレースに挑めた。昨日得た事を生かす事ができ、今日は自分のベストな走りが出来た。」(清水)

「コンディションを読むのが難しいレースだった。転倒寸前の場面もあったが、攻めた走りは出来たと思う。女子ライダーのレベルが急激に上がっ

てきているが、今回の悔しさを次に活かして自分自身もレベルアップできればと思う。」(末政)

[チームリレー]

チームリレーには山本幸平、中原義高、片山梨絵、前田公平が参加した(出走順)。参加チームは20チーム、優勝はイタリアチーム。

レースはイタリアチームとフランスチームのゴール勝負となった。日本は昨年の順位16位よりも良い順位でゴールすることを目標とし、15位でフィニッシュした。

XCレースの前にチームリレーが開催されるので、選手にとってはレースペースでコースを走ることができる良い機会になったようだ。



チームリレーの4選手

[XCO U23]

出走は102人で14時にスタート。スタートループ+6周回で行われた。

スタートの位置が後方だったため、スタートで何とか前に出ようと試みたが、なかなか前に出ることができず、シングルトラックの下りで前が詰まり、自転車から降りて走ることになってしまった。周回ごとに少しずつ順位をあげたが、最終結果は82位となった。「スタートの勢いに負けてしまい、なかなか前に出ることができず焦りが出てしまった。集団の中で前に出ることの難しさを身を持って感じた。

海外選手の下りの速さとテクニックの凄さを感じた。登りで追いつき抜くこ

とができて、下りで追いつかれる状態だった。スプリント力とテクニックを付けていきたいと思う。

この経験をこれからのレースに繋げていきたいと思う。」(中原)

[XCO ジュニア]

ジュニア男子には、日本から沢田時と前田が参加した。レース当日は快晴、スタートは9時で5週のレースとなった。スタートは99人、優勝はAnton Cooper (NZL) タイムは1時間06分53秒でフィニッシュ。2位の選手と2分17秒の差をつけての優勝となった。

沢田は27位の1時間14分37秒でフィニッシュした。沢田は1周目は一桁でスタートラインに戻ってきたが、周回を重ねるたびに順位が下がる結果となってしまった。しかし、スタートで前に出ることが難しい中で前半良い位置にいられたと思う。

前田は最終ラップに入ることができず、-1ラップとなってしまった。トップ選手のラップタイムが速く、完走した選手は53名。前田は56位だったので、あと少し時間があれば完走も可能であったのではと思う。また前田はスタート位置も後方で、海外のレースが初めてだったので、スタートで前にあがることの難しさを感じたようだ。スタートのポジションがもっと前方だったら・・・とも思った。

日本のレースでは経験できないことを体験し、学べた部分も多かったのではと思う。2人ともジュニア最後の年のレースだったが、今後の成長も期待する。

[XCO 女子]

女子には、日本から片山が参加した。レースは11時にスタート。周回数は6周、出走は53人のレースとなった。

優勝はJulie Bresset (FRA)。ロンドンオリンピックに続けての優勝だった。

片山は-1ラップの36位。完走は35人。片山の前の選手までが最終ラップに入れ、その選手が目の前に見えていたのでもう少し速ければ片山も完走で来ていたと思う。片山は練習中にロックセクションで落車をしてしまい、体にもダメージがあったようだ。

[XCO 男子]

スタートは14時、周回数は8周で86人が出走、日本から山本が参加した。優勝はNino Shurter (SUI)、山本は29位、完走は38人だった。

トップ10はすべてヨーロッパ勢で、そこにはスイスの選手が4人含まれ、1位～3位を独占。ヨーロッパ選手の強さが印象に残るレースとなった。

山本はゴール後に、「今までの世界選手権での最高順位を目標にしていたが、達成できずに残念だった。」と話していた。しかし、完走者の数少ないレースなので走り切れたこと、山本の上を目指す向上心は今後のレースでの活躍が期待できるのではと思った。今後も若手の選手を目標として活躍してくれることを期待する。

[競技結果]

2012UCIマウンテンバイク&トライアル世界選手権大会
ダウヒル (2012/9/1-2 オーストリア・レオガング)

ダウヒル男子エリート

1	MINNAAR Greg	RSA	3:21.790
2	ATHERTON Gee	GBR	3:22.371
3	SMITH Steve	CAN	3:23.004
70	清水 一輝	愛知 アキアクトリ	3:46.692

ダウヒル女子エリート

1	CHARRE Morgane	FRA	3:50.654
2	RAGOT Emmeline	FRA	3:51.853
3	CARPENTER Manon	GBR	3:52.144
20	末政 実緒	兵庫 Funfancy	4:16.731

クロスカントリー (2012/9/6-9 オーストリア・ザールフェルデン)

クロスカントリーチームリレー

1	イタリア	51:54
2	フランス	51:55
3	ドイツ	53:17
15	日本 山本・中原・片山・前田	59:08

クロスカントリー男子エリート

1	SCHURTER Nino	SUI
2	FLÜCKIGER Lukas	SUI
3	FLÜCKIGER Mathias	SUI
29	山本 幸平	北海道 SPECIALIZED

クロスカントリー女子エリート

1	BRESSET Julie	FRA
2	DAHLE FLESJAA Gunn-Rita	NOR
3	GOULD Georgia	USA
36	片山 梨絵	神奈川 スペシャルイズドジャパン

クロスカントリー男子U23

1	CINK Ondrej	CZE
2	VAN DER HEIJDEN Michiel	NED
3	BRAIDOT Daniele	ITA
82	中原 義貴	大阪 TeamMX/STORCK

クロスカントリー男子ジュニア

1	COOPER Anton	NZL
2	KORETZKY Victor	FRA
3	CAROD Titouan	FRA
27	沢田 時	滋賀 HARO/ENDLESS
56	前田 公平	東京 ENDLESS/ProRide

トライアル

UCIトライアル世界選手権が9月3-7日オーストリア・ザールフェルデンでMTB競技と併催で行われた。日本からはジュニア20"、エリート20"に計5名の選手が送り出された。

会場は、ザールフェルデンの市街地。セクション(コース)は主にコンクリートブロックや丸太、岩などを積み上げた高低差の大きな「跳べる」選手に有利なもの。これは、他の国際大会などでも同様の傾向で、国内では主に自然物(土や岩の山肌の斜面など)で主に競ってきた日本人選手には難しい設定となる。

競技進行では、全ての選手が準決勝からスタートし、上位8名による決勝が日を改めて行われた。

[ジュニア20"]

坪井大地、甘利大斗、飯沼裕慧の3選手が出場。

4日の準決勝(6セクション×3ラップ)。高低差のあるセクションが正に越えられない壁となって立ちほだかる。結果、1つのコースを1ポイントで抜けた甘利が14位。坪井、飯沼は全て5ポイントとなり競技タイム差で18位、20位となり全員準決勝で敗退した。

[エリート20"]

寺井一希、柴田泰嵩の2選手が4日の準決勝(6セクション×3ラップ)に挑んだ。この両選手は直前のワールドカップを2つ転戦して海外での経験値を積んでこの世界選手権に臨んだ。難コースながらも寺井は着実に5位で決勝へ進出。柴田はセクションの難

易度と厳しいジャッジに戸惑い11位で敗退した。

6日に行われた決勝は、午後9時スタートのナイター照明の中、6セクション×2ラップで行われた。慣れない照明と多くの観衆に囲まれる異様な雰囲気(監督:岩佐談)の中で調子が上がらず、また競技制限時間が厳しく急いでコースを回ることによって体力が削られる中、54ポイントで終了。同点5位となったが準決勝の成績により6位となった。

今回の選手団は全員が世界選手権初参戦。今回の経験を今後の糧として更なる成長を期待する。

[競技結果]

2012UCIマウンテンバイク&トライアル世界選手権大会
トライアル (2012/9/4-5 オーストリア・レオガング)

トライアル Elite 20"

1	ROS CHARRAL Benito	ESP	33
2	MUSTIELES GARCIA Abel	ESP	36.5
3	HERMANCE Vincent	FRA	41
6	寺井 一希	埼玉	54
11	柴田 泰嵩	愛知	78

トライアル Juniors 20"

1	PILS Raphael	GER	15
2	MUFFAT Maxime	FRA	28
3	LEISER Lucien	SUI	31
14	甘利 大斗	長野	86
18	坪井 大地	宮城	90
20	飯沼 裕慧	群馬	90

トライアルエリート20の柴田



トライアルエリート20の寺井

文部科学大臣杯第68回全日本大学対抗選手権自転車競技大会

男子総合優勝：日本大学、女子総合優勝：鹿屋体育大学

KEIRIN 00

この大会は競輪の補助金を受けて実施されました



男子4km団体追抜優勝の鹿屋体育大学



男子チームスプリント優勝の日本大学



男子タンデムスプリント優勝の早稲田大学(左)と2位の中央大学



男子ケイリン決勝

今年で68回の歴史を誇る“インカレ”が、九州では31年振りに、鹿児島県では初めて開催された。遠方開催ながらも、地元車連や関係団体等ご協力により、移手段(フェリー)斡旋、副賞のご提供、地元メディアへの露出等もあり、会場には多くの人が集まって盛大な大会となった。また近年、大学自転車競技は、選手権大会や強化、普及大会等、各目的に応じて年間約30大会が開催されており、学生競技者のレベルアップへ向けた取り組みを実施している。そうした中でも、このインカレは各校最大目標とする大会であり、今年も総力を結集して4日間の熱戦が繰り広げられた。

男子トラックレースでは、3つの大会新記録・学連新記録が生まれ、強化の取り組みに一定の成果が見られた。例えば、4kmチームパーシュートは上位校が4分20秒を競う激戦になり、今後の日本新記録への挑戦も楽しみなものである。男子はトラック

競技終了時点で、日本大学がすでに4種目の優勝を含め得点を重ねて、総合30連覇へ向けて大きく前進した。

女子トラックレースでは、短距離種目はロンドンオリンピック代表の前田佳代乃、中長距離種目は上野みなみ(ともに鹿屋体育大)が、それぞれ2種目を制する活躍を見せた。女子はトラック競技終了時点で、鹿屋体育大学が全種目優勝により他校に大差をつけ、総合9連覇が濃厚となった。

男子ロードレースは、公道の特設周回コースにて距離162kmで行われ、こうした本格的なレース距離設定とすることで、それに向けた各選手日常練習が必要になり強化に繋がることに期待したい。レース中盤から日本大学と鹿屋体育大を中心に、数名が集団から飛び出しては吸収される展開で進化した。そして終盤、榊原健一(中京大)、中尾圭佑(順天堂大)らを含む数名が逃げ、最終周回では中尾が榊原を振り切って、インカレロード初優勝を

飾った。このロードレースでも、日本大学は着実に入賞、得点を重ねて、男子総合30連覇という偉業が達成された。

女子ロードレースは、距離72kmで行われたが、中盤までは集団のままペースが上がらず、終盤に入って、上野みなみ(鹿屋体育大)と福本千佳(同志社大)が抜け出した。最後の登りで上野が先行して逃げ切り、インカレロード3連覇を飾った。この結果、女子総合は鹿屋体育大が他校を圧倒し、9連覇を達成した。

振り返れば今年のインカレは、総合連覇を果たした男子：日本大学、女子：鹿屋体育大学の、選手層の厚さを改めて感じさせられた大会であった。しかし総合2位以下の学校にも、着実に力をつけてきている選手もおり、今後も更なる学生競技者のレベルアップに期待したいところである。

(倉田 達樹)



男子ポイントレース優勝の①高士



女子チームスプリント優勝の鹿屋体育大学



男子個人ロードレース優勝の中尾



女子個人ロードレース優勝の上野

【競技結果】

2012年文部科学大臣杯 第68回全日本
大学対抗選手権自転車競技大会
(2012/8/30-9/1 [トラック] 鹿児島・根占
9/2 [ロード] 鹿児島・錦江)

男子スプリント

- 1 橋本 凌甫 東京 日本大
- 2 松本 貴治 愛媛 朝日大
- 3 門脇 翼 秋田 東北学院大

男子1kmタイムトライアル

- 1 末木 浩二 山梨 日本大 1:05.892
- 2 門脇 翼 秋田 東北学院 1:06.623
- 3 原田 裕成 岡山 鹿屋体大 1:07.433

男子ケリソ

- 1 末木 浩二 山梨 日本大
- 2 阿部 拓真 宮城 法政大
- 3 池野 健太 兵庫 中央大

男子4km個人追抜競走

- 1 橋本 英也 岐阜 鹿屋体大 4:41.296
- 2 矢野 智哉 岐阜 朝日大 4:49.001
- 3 近谷 涼 富山 日本大 4:45.085

男子ポイントレース(40km)

- 1 高士 拓也 三重 中央大 56p
- 2 矢野 智哉 岐阜 朝日大 27p
- 3 和田 力 和歌山 日本大 23p

男子タテムスプリント

- 1 早稲田大 佐々木龍・今井
- 2 中央大 野村・八田
- 3 順天堂大 木村・村上

男子チームスプリント

- 1 日本大 森・橋本・末木 1:17.039

- 2 法政大 丸田・阿部・深瀬 1:17.410
- 3 早稲田 佐々木龍・今井・佐々木勇 1:18.044

男子4km団体追抜競走

- 1 鹿屋体 高宮・山本・長瀬・橋本 4:20.293
- 2 中央大 黒瀬・緑川・高士・神開 4:23.181
- 3 日本大 和田・近谷・北村・我妻 4:24.114

男子個人ロードレース(162km)

- 1 中尾 佳祐 埼玉 順天堂大 4:19:34
- 2 榊原 健一 愛知 中京大 4:20:00
- 3 山本 元喜 奈良 鹿屋体育大 4:21:07
- 4 大田口 凌 宮城 東北学院大 4:21:25
- 5 板橋 義浩 青森 日本大 4:21:40
- 6 筋内 優大 神奈川 法政大 4:22:26

大学対抗総合成績

- 1 日本大学 79p
- 2 鹿屋体育大学 59p
- 3 法政大学 44p



女子500mタイムトライアル

- 1 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大 36.690
- 2 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大 37.749
- 3 古河 麻美 福島 日本体育大 38.794

女子スプリント

- 1 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大

- 2 木村 亜美 鹿児島 鹿屋体育大
- 3 濱田 瞳 青森 法政大

女子3km個人追抜競走

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 3:55.360
- 2 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大 4:01.378
- 3 中村 妃智 千葉 日本体育大 4:07.070

女子ポイントレース(16km)

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 50p
- 2 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大 44p
- 3 小島 蓉子 千葉 日本体育大 32p

女子チームスプリント

- 1 鹿屋体育大 塚越・上野 59.144
- 2 法政大 濱田・丸田 59.315
- 3 日本体育大 古河・小島 1:00.004

女子個人ロードレース

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 2:15:48
- 2 福本 千佳 大阪 同志社大 2:15:52
- 3 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大 2:17:50

女子大学対抗総合成績

- 1 鹿屋体育大学 78p
- 2 日本体育大学 27p
- 3 法政大学 13p



第46回JBCF経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ



経済産業大臣旗は宇都宮ブリッツェンに!

男子 P1 優勝の WIESIAK



第46回経済産業大臣旗 ロードチャンピオンシップ

全17戦のJプロツアーで最も格上のAAAランク付けされる大会。個人だけでなく団体優勝チームには輪翺旗が授与されるもので、今年で46回目を迎える歴史ある実業団ロードの頂上決戦。

コースは広島アジア大会を機に作られたアップダウンとカーブの多い、力とテクニックの両方の必要な名コース。1周目から安原大貴(マトリックスパワータグ)が逃げ、3周目には向川尚樹(マトリックスパワータグ)、普久原奨(宇都宮ブリッツェン)、吉田隼人(ブリヂストンアンカー)、入部正太郎(シマノレーシング)、遠藤績穂(cannondale spacezeropoint)、嶋田義明(TeamUKYO)の6人が逃げる。

参加すべてのコンチネンタルチームが入った逃げは容認されたが7周目には吸収されて再びアタックの応酬に。9周目に平塚吉光(シマノレーシング)が単独アタックするがこれも1周後に吸収。

11周目に入るホームストレートへの上りで初山翔(宇都宮ブリッツェン)がアタック、伊丹健治(ブリヂストンアンカー)がすぐ反応、そして地元出身の野中竜馬(シマノレーシング)も合流。さらに下りでマリウス・ヴィズィアック(マトリックスパワータグ)が合流して4人の逃げが完成。メイン集団内の選手たちは協調した追走を作れず、4人の逃げが決定的に。

最終周回、上りで伊丹がアタック

するが4人そのままゴールスプリントへ。これをスプリントに長けるヴィズィアックが制して優勝。ヴィズィアックは2009年の同大会を集団スプリントで制しており、個人としては2勝目。チームとしては昨年のヴィンチェンツォ・ガロツファロに続いて2連勝。

上位3人の成績で決まる団体成績は宇都宮ブリッツェンが優勝、栄えある輪翺旗が授与された。

第1回JBCF女子 チャンピオンシップ



女子優勝の西

今年から新設された、女子のチャンピオンを決めるレースは5周61.5kmで行われた。1周目から崎本智子(ナカガワAS.K'デザイン)、金子広美(イナメ・アイランド信濃山形)、西加南子(LUMINARIA)らが積極的にレースをリード。崎本がペースを保ち、西が要所でそして金子が上りでペースアップする展開。6人となった最終周回、上りで金子がアタックするが6人のままで下り、ゴールスプリントへ。崎本が先行、すぐに金子がリード、そして西がゴール前で伸びて優勝。西は初代女王に。

第1回ジュニアユース ロードチャンピオンシップ

ジュニア・ユース年代の実業団登録選手によって行われた、今年か



ジュニアユース優勝の小林

ら設定されたタイトル。序盤は野島遊(パールイズミ・スミタ・ラバネロ)が、その後は雨澤毅明(ブラウブリッツェン)、岡篤志(cannondale spacezeropoint)、内野直也(湘南ベルマーレ)、谷内田涼(Team EURASIA)らが積極的に動く。そして小林海(SPACE ZEROPOINT)、14歳の大町健斗(チームサイクルプラス)が加わった6人でのゴール勝負へ。ロングスパートをかけた小林がこれを制し優勝。

【競技結果】

第46回JBCF経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ
(2012/9/23 広島・中央森林公園)

男子 P1 (159.9km)

1	WIESIAK Mariusz	マトリックス	4:07:49
2	初山 翔	栃木ブリッツェン	4:07:50
3	伊丹 健治	JPCA BSアンカー	4:07:50
4	野中 竜馬	広島シマノレーシング	4:07:50
5	井上 和郎	福井BSアンカー	4:08:13
6	飯野 智行	群馬ブリッツェン	4:08:14

団体成績

1	宇都宮ブリッツェン
2	マトリックスパワータグ
3	ブリヂストンアンカーサイクリングチーム

第1回JBCF女子チャンピオンシップ
(2012/9/22 広島・中央森林公園)

女子 (61.5km)

1	西 加南子	千葉LUMINARIA	1:50:59
2	金子 広美	東京イナメアイランド	1:50:59
3	森本 朱美	鳥取スミタ・ラバネロ	1:51:00
4	崎本 智子	愛媛ナカガワAS	1:51:01
5	星川恵利奈	香川湘南ベルマーレ	1:51:09
6	坂口 聖香	兵庫Ready Go J.1	1:51:24

第1回JBCFジュニアユースロードチャンピオンシップ
(2012/9/22 広島・中央森林公園)

男子ジュニア (49.2km)

1	小林 海	東京SPACE	1:16:36
2	岡 篤志	茨城cannondale	1:16:37
3	谷内田 涼	石川EURASIA	1:16:37
4	雨澤 毅明	栃木ブラウブリッツェン	1:16:37
5	内野 直也	埼玉湘南ベルマーレ	1:16:39
6	大町 健斗	広島チームサイクルプラス	1:16:41

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

ジャパンスピリッツ J1 富士パワァ XCO#4/DHI#2 (2012/7/14-15 長野・富士見)

男子エリート タウンヒル

- 1 清水 一輝 愛知 AKI FACT 2:33.001
- 2 井手川直樹 広島 Devinci 2:33.245
- 3 九島 勇気 神奈川 玄武Ninja2:33.814

女子エリート タウンヒル

- 1 末政 実緒 兵庫 Funfancy 3:05.448
- 2 服部 良子 神奈川 FUST 3:13.480
- 3 中川 弘佳 大阪 RingoRoad3:17.281

男子エリート クロスカントリー (24.0km)

- 1 山本 和弘 北海道 キャノンテール1:31:37.84
- 2 斉藤 亮 長野 MIYATA 1:31:50.06
- 3 小野寺 健 北海道 スパシテラズド 1:37:12.44

女子エリート クロスカントリー (16.0km)

- 1 片山 梨絵 神奈川 スパシテラズド 1:14:22.98
- 2 中込由香里 長野 SY-NaK 1:22:31.06
- 3 與那嶺恵理 茨城 フォルツァ! 1:24:08.48

ツル・ド・北海道 2012 (2012/9/15-17 北海道・道北～道央)

個人総合

- 1 片セ マツダリアノ ARG チーム NIPPO 12:34:49
- 2 西園 良太 JPN BS アンカー 12:35:11
- 3 窪木 一茂 JPN マトリックス 12:35:12
- 4 増田 成幸 JPN ブリッヴェン 12:35:15
- 5 ハミルトン ニック CAN ジェリーハリー 12:35:18
- 6 飯野 智行 JPN ブリッヴェン 12:35:19

ポイント総合

- 1 片セ マツダリアノ ARG チーム NIPPO 76p
- 2 窪木 一茂 JPN マトリックスパワータグ 41p
- 3 ハミルトン ニック CAN ジェリーハリー 38p

山岳賞総合

- 1 ハミルトン ニック CAN ジェリーハリー 21p
- 2 井上 和郎 JPN BS アンカー 15p
- 3 窪木 一茂 JPN マトリックスパワータグ 9p

チーム総合

- 1 宇都宮ブリッヴェン 37:46:12
- 2 ブリヂストンアンカーサイクリングチーム 37:46:17
- 3 チーム NIPPO 37:47:00

Stage1 旭川市～当麻町

- 1 黒枝 士揮 JPN 鹿屋体育大 3:56:19
- 2 片セ マツダリアノ ARG チーム NIPPO 3:56:19
- 3 鈴木 譲 JPN シルレーシング 3:56:19
- 4 大久保 陣 JPN ハーリスミ 3:56:19

- 5 吉田 隼人 JPN BS アンカー 3:56:19
- 6 住吉 宏太 JPN 日本大 3:56:19

Stage2 当麻町～美瑛町

- 1 片セ マツダリアノ ARG チーム NIPPO 4:00:28
- 2 西園 良太 JPN BS アンカー 4:00:28
- 3 増田 成幸 JPN ブリッヴェン 4:00:28
- 4 飯野 智行 JPN ブリッヴェン 4:00:28
- 5 窪木 一茂 JPN マトリックス 4:00:30
- 6 伊丹 健治 JPN BS アンカー 4:00:33

Stage3 美瑛町～札幌市

- 1 片セ マツダリアノ ARG チーム NIPPO 4:38:32
- 2 ハミルトン ニック CAN ジェリーハリー 4:38:32
- 3 小室 雅成 JPN キャノンテール 4:38:32
- 4 窪木 一茂 JPN マトリックス 4:38:32
- 5 廣瀬 佳正 JPN ブリッヴェン 4:38:32
- 6 マスイク ショーン USA ジェリーハリー 4:38:32

ジャパンスピリッツ J1 ウィンクヒルズ 白鳥リゾートDHI#5 (2012/9/29 岐阜・郡上)

男子エリート タウンヒル

- 1 井手川直樹 広島 Devinci 3:32.246
- 2 永田 隼也 神奈川 A&F 3:32.589
- 3 安達 靖 愛知 Dirtfreak 3:33.973

女子エリート タウンヒル

- 1 末政 実緒 兵庫 Funfancy 3:55.726
- 2 中川 弘佳 大阪 RingoRoad4:04.847
- 3 九島 あかね 神奈川 KHS 4:05.053

東日本大震災に伴う「泉崎国際サイクルスタジアム」災害復旧 のための支援金募金の募集について

昨年3月の東日本大震災において、福島県西白河郡泉崎村にある財団法人福島県体育協会所有の「泉崎国際サイクルスタジアム」は、走路の亀裂や管理棟付近の陥没等甚大な被害を被り現在使用できない状態で、一日も早い復旧が望まれています。つきましては、現在、本連盟がホームページ上でご案内しております“東北地方の「自転車競技場の修復」のための支援金募金”をこの「泉崎国際サイクルスタジアム」災害復旧支援募金として寄付することになりました。すでに募金をいただいた方もいらっしやいますが、更にみなさまへ募金のご協力をお願い申し上げます。

振込先 リソな銀行 東京公務部
口座番号 普通預金0069957
口座名 財団法人日本自転車競技連盟 義援金口
※この銀行口座はJCF義援金専用口座ですのでご注意ください。

2012トラッククラブACCカップ(イラン) 日本代表選手団

大会名 2012トラッククラブACCカップ イラン
開催場所 イラン・テヘラン
大会期間 2012年10月20日～22日
派遣期間 2012年10月17日～24日
代表選手団

監督 坂本 勉(ナショナルコーチ)
コーチ 村田 正洋(アシスタントナショナルコーチ)
メカニック 森 昭雄(JCF強化スタッフ)
マッサー 柳 浩史(JCF強化スタッフ)
選手 坂本 貴史(JPCA・JPCU青森)
河端 朋之(JPCA・JPCU岡山)
稲毛 健太(JPCA・JPCU和歌山)

NEWS

●平成24年度第一級公認審判員講習会(トラック・ロード)合格者

下記の4名の方が、平成24年度第2回理事会(平成24年9月26日)で承認されました。(敬称略・順不同)
綿貴 光子(茨城)・小口 英之(栃木)・愛場 政広(東京)・伊藤 清朗(長野)

●国民体育大会10回以上表彰

向川 尚樹(大阪・マトリックスパワータグ)・山根 理史(島根・湘南ベルマーレ)

●事務局人事異動

平成24年9月30日付 事務局長 大池 新次(帰任)
平成24年10月1日付 事務局長 越後谷 修(財団法人JKAより出向)

2012年マウンテンバイクアジア選手権大会 日本代表選手団

大会名 第18回マウンテンバイクアジア選手権大会
第4回マウンテンバイクジュニアアジア選手権大会
開催場所 レバノン・パキスタン
大会期間 2012年10月10日～14日
派遣期間 2012年10月8日～16日
代表選手団
チームメイト 山本 和弘
メカニック 仁木 康夫
マッサー 渡邊 城作
選手
XC男子17歳 山本 幸平(北海道・スペシャライズドレーシングチーム)
山本 和弘(北海道・キャノンデールジャパン)
XC女子17歳 片山 梨絵(神奈川・スペシャライズド・ジャパン)
XC男子27歳 前田 公平(東京・ENDLESS/ProRide)
DH男子17歳 清水 一輝(愛知・AKI FACTORY TEAM)
青木 卓也(東京・ジャイアント)

※ダウンヒル女子はエントリーが少ないため中止

2012-2013トラックワールドカップ第1戦カリ大会 日本代表選手団

大会名 2012-2013トラックワールドカップ
第1戦カリ大会
開催場所 コロンビア・カリ
大会期間 2012年10月11日～13日
派遣期間 2012年10月7日～15日
代表選手団
監督 松本 整(ナショナルチーム総監督)
コーチ 坂本 勉(ナショナルコーチ)
村田 正洋(アシスタントナショナルコーチ)
沖 美穂(JCF強化アドバイザー)
メカニック 森 昭雄(JCF強化スタッフ)
マッサー 森 典隆(JCF強化支援スタッフ)
ドクター 小林 裕幸(JCFチームドクター)
選手 河端 朋之(JPCA・JPCU岡山)
坂本 貴史(JPCA・JPCU青森)
稲毛 健太(JPCA・JPCU和歌山)
石井 寛子(東京・日本競輪学校)
前田佳代乃(鹿児島・鹿屋体育大学)

連盟の動き (9月下旬～10月中旬)

- 9月26日 公益財団法人最初の評議員の選任にともなう評議員選定委員会 於：東京・日本自転車会館3号館3階
第2回理事会 於：東京・日本自転車会館3号館4階
10月7日 12-13年トラックワールドカップ第1戦日本代表選手団出発 於：コロンビア・カリ 帰国→10/15
8日 2012年MTBアジア選手権大会日本代表選手団出発 於：レバノン・パキスタン 帰国→10/16
15日 第5回広報部会 於：東京・日本自転車会館3号館3階

無限の夢へ、走りだそう。



RING!RING! プロジェクト

競輪の補助事業

第 67 回国民体育大会自転車競技会

地元岐阜が総合優勝!



少年男子 1kmTT 大会新で優勝した佐伯



4km 団体追抜競走優勝の奈良



成年男子ポイントレース地元優勝の橋本(先頭)

第67回国民体育大会ぎふ清流国体が岐阜県で行われ、トラック競技は岐阜市の岐阜競輪場、ロードレースは美濃市特設ロードレースコースにて、成年男子149.1km、少年男子106.5kmで盛大に開催された。本大会は東日本大震災復興支援を目的として、自転車競技が復興につながる事を願って行われ、女子の競技もエキシビジョンレースとしてチームスプリント、ケイリン、スプリントレースが行われ大変な盛り上がりを見せた。

10月3日から岐阜競輪場で行われたトラック競技においては、1kmタイムトライアル少年男子で、先に大会新記録を出した地元岐阜県の堀兼壽のタイムを上回り、鳥取県の佐伯亮輔が1分

05秒997の大会新記録で優勝。成年男子は埼玉県の山内厚二が1分06秒425で優勝した。少年男子のケイリンは富山県の谷本奨輝が、成年男子は大分の黒枝土揮が優勝。スプリントは少年男子静岡の渡邊雄太、成年男子は東京の橋本凌甫が優勝。ポイントレース少年男子は22ポイントを獲得した群馬県的小林泰正、成年男子は地元の大声援を受け30ポイントを獲得した岐阜県の橋本英也が優勝した。

4000m速度競走少年男子は福岡県の原井博斗が、成年男子は三重県の高土拓也が優勝。4000m団体追抜競走は大会新記録の4分24秒366を出した奈良県が地元の岐阜をわずかに押さえて優勝した。



成年男子 1kmTT 優勝の山内

少年男子スプリント優勝の渡邊(右)と2位の橋本



成年男子スプリント優勝の橋本(左)と2位の松本



少年男子ケイリン決勝、先頭から1位谷本、2位清水、3位染田



成年男子ケイリン、1位③黒枝、2位②末木、3位①尾形



少年男子4km速度競走優勝の原井(先頭)



成年男子4km速度競走優勝の④高士



少年男子ポイントレース優勝の小林(先頭)

チームスプリント優勝の福井





成年男子個人ロードレース最終ラップの先頭集団

7日から場所を美濃市の特設ロードコースに移動し1周21.3kmを少年5周、成年7周で行われ、少年男子は群馬県の小林泰正がポイントレースに続いて優勝し、成年男子は福井県の井上和郎がゴールスプリントを制して優勝した。

大会を振り返ると、地元小中高生他各団体の観客動員でかなりの盛り上がりを見せ、選手達も大歓声に後押しされる走りを見せてくれた。全日本クラスの大会は今回の国体の様に観客動

員をし、PRをする事で自転車競技に興味を持ってもらう事が非常に大切であると痛切に感じた。少年男子においては1kmタイムトライアルで大会新記録が出た様に各競技のレベルが上がって来ているのを感じたが、成年になるとタイム的にも伸び悩みが感じられその時期の育成方法等、環境の整備を早急にしなければならぬと感じた。女子の競技も底辺拡大につながる様に国体の正式種目になる事を願う。

(広報委員長・強化副委員長 塚本 芳大)

少年男子個人ロードレース逃げる6人



【競技結果】

第67回国民体育大会自転車競技会
(2012/10/3-7【トラックレース】岐阜・岐阜
競輪場【ロードレース】岐阜・美濃)

成年男子スプリント

- 1 橋本 凌甫 東京 日本大
- 2 松本 貴治 愛媛 朝日大
- 3 會澤 龍 宮城 一

少年男子スプリント

- 1 渡邊 雄太 静岡 星陵高
- 2 橋本 瑠偉 佐賀 龍谷高
- 3 相馬 義宗 岐阜 岐南工高

成年男子1kmタイムトライアル

- 1 山内 厚二 埼玉 日本体育大 1:06.425
- 2 神田 龍 三重 一 1:07.087
- 3 碓 優太 福井 日本大 1:07.407

少年男子1kmタイムトライアル

- 1 佐伯 亮輔 鳥取 倉吉西高 1:05.997
- 2 堀 兼壽 岐阜 岐阜第一高 1:06.654
- 3 堀田 海人 三重 朝明高 1:07.254

成年男子ケリソ

- 1 黒枝 士揮 大分 鹿屋体育大 11.297
- 2 末木 浩二 山梨 日本大
- 3 尾形 鉄馬 宮城 一

少年男子ケリソ

- 1 谷本 奨輝 富山 氷見高 11.122
- 2 清水 裕友 山口 誠英高
- 3 築田 一輝 千葉 千葉経大附高

成年男子4km速度競走

- 1 高士 拓也 三重 中央大 4:40.83
- 2 一丸 尚伍 大分 法政大
- 3 和田 力 和歌山 日本大

少年男子4km速度競走

- 1 原井 博斗 福岡 祐誠高 4:42.11
- 2 渡邊翔太郎 岐阜 岐南工高
- 3 久保田泰弘 山口 誠英高

成年男子ポイントレース(30km)

- 1 橋本 英也 岐阜 鹿屋体育大 30p
- 2 入部正太郎 奈良 シルレーシングチーム 22p
- 3 野中 竜馬 広島 シルレーシング 20p

少年男子ポイントレース(24km)

- 1 小林 泰正 群馬 高崎工高 22p
- 2 片桐 善也 新潟 吉田高 17p
- 3 蠣崎 藍道 静岡 伊豆総合高 11p

チームスプリント

- 1 福井 小林・寺崎・末本 1:17.433
- 2 岐阜 佐野・堀・相馬 1:17.909
- 3 東京 野口・今井・橋本 1:18.355

4km 団体追抜競走

- 1 奈良 吉田・入部・山本・安原 4:24.366
- 2 大分 黒枝・池部・六峰・一丸 4:28.684
- 3 和歌山 北村・窪木・和田・岡本 4:24.522

成年男子個人ロードレース(149.1km)

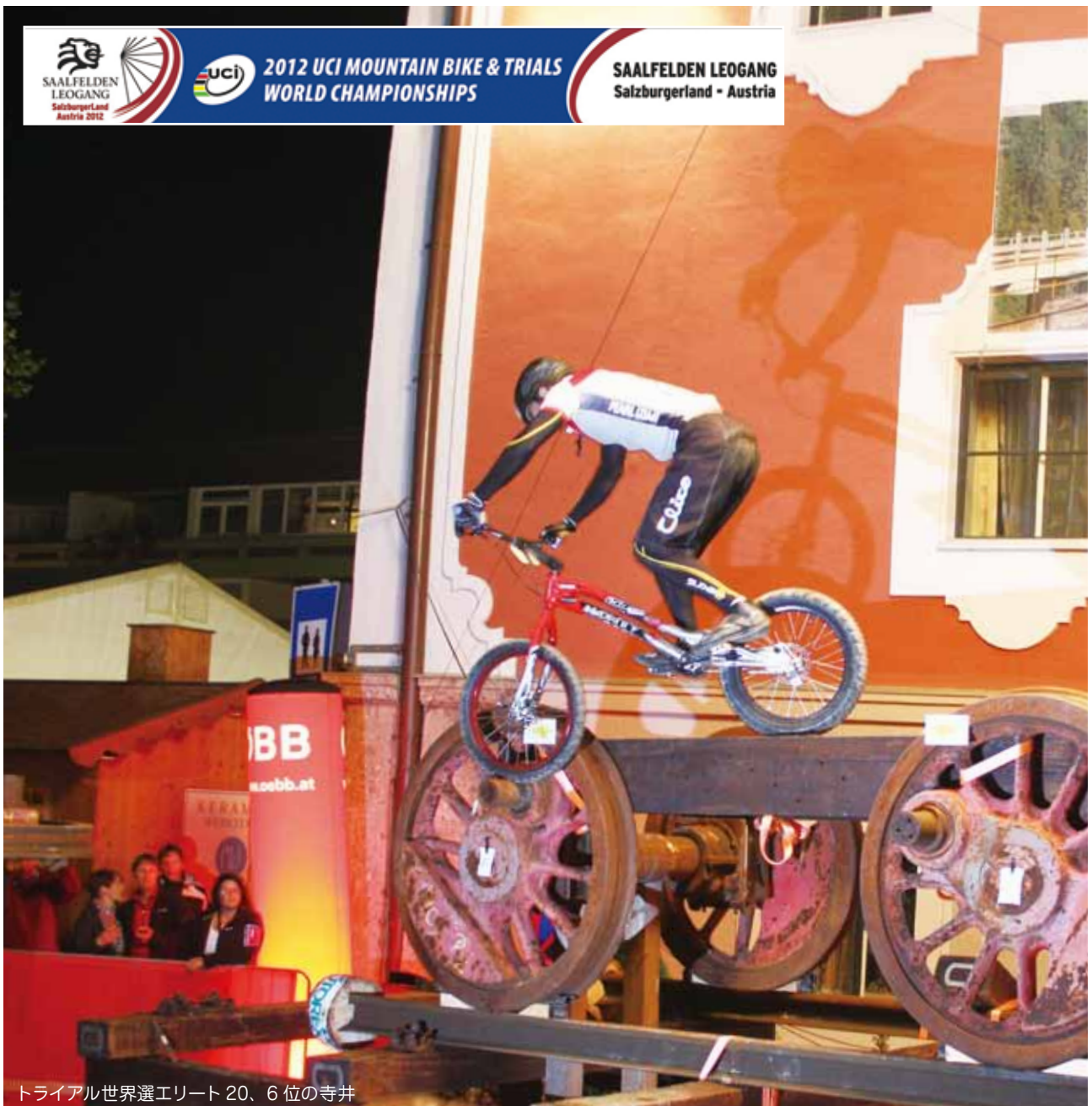
- 1 井上 和郎 福井 BSアソカ 3:27:07
- 2 青柳 憲輝 栃木 シノ 3:27:07
- 3 窪木 一茂 和歌山 和歌山県 3:27:08
- 4 中根 英登 愛知 中京大 3:27:10
- 5 黒枝 士揮 大分 鹿屋体育大 3:27:35
- 6 六峰 亘 大分 BSエスワールド 3:27:35

少年男子個人ロードレース(106.5km)

- 1 小林 泰正 群馬 高崎工高 2:31:04
- 2 城田 大和 沖縄 北中城高 2:31:06
- 3 山本 大喜 奈良 榛生昇陽高 2:31:06
- 4 馬渡 伸弥 東京 昭和第一学 2:31:37
- 5 徳田 優 京都 北桑田高 2:31:50
- 6 吉田 優樹 福島 学法石川高 2:32:07

総合成績

- 1 岐阜県 73p
- 2 福井県 58p
- 3 奈良県 56p



トライアル世界選エリート 20、6位の寺井

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.194 2012年10月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟
 発行人/大島研一
 編集人/塚本芳大
 編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局
 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内
 TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>



この資料および〇〇の表示がある事業は、JKAから競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。
 © (財)日本自転車競技連盟 2012年紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。
 ※本誌「シクリスムエコー」定期購読をご希望の方は編集事務局までお問合せください。

＝シクリスムエコー読者のみなさまへ＝ 本誌についてのご意見、ご感想、ご要望等を編集事務局までお寄せください。